



つなみまち

No.187
TSUNAN-TOWN
2012年10月20日発行

9月定例会 9/11~14

平成 24 年度補正予算	②
意見書・人事・第2回臨時会	③
決算認定（一般・特別会計） 賛成・反対討論	④～⑤
一般質問	⑥～⑩
委員会レポート	⑪
特集震災後の視察報告	⑫～⑬
シリーズ 私もひと言・編集後記	⑭



[写真]

- ・上段 上 / ひまわり保育園運動会(9/29)
- ・上段 中 / 女性消防団(9/2消防訓練)
- ・上段 下 / 祭りを彩る女性たいこ(8/27大割野)
- ・下段 / 実る津南米(正面)

発行：新潟県津南町議会 責任者：議長 河田 強一
町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。

5つの意見書提出を議決

- ① 「ゆきとどいた教育」の前進を求める意見書（賛成多数）
- ② 「教育費無償化」の前進を求める意見書（賛成多数）
- ③ 郵便局の効率化施策に関する意見書（全員賛成）
- ④ 私立高校生が学費を心配せず学べるように、私学助成の増額・拡充を求める意見書（賛成多数）
- ⑤ 地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書（全員賛成）

以上①～③の請願、④の陳情が採択され、5つの意見書を国県の関係機関へ提出しました。

人事

津南町固定資産評価審査委員会 委員選任について



桑原 京子氏

昭和32年6月19日生
津南町大字下船渡己2810番地(貝坂)
新潟県立新潟女子短期大学卒業
・S53.4～H8.3
新潟県農業改良普及員
・H8.4～現在 農業
・H21.9.26～現在
津南町固定資産評価審査委員会委員

全員賛成で同意されました。(再任)

津南町教育委員会委員任命について



山岸 博之氏

昭和45年12月15日生
津南町大字下船渡甲5928番地4(上段)
東京農業大学卒業
・H4.4～H9.3 陸上自衛隊
・H9.4～現在 森宮交通株式会社
・H16.1～現在 森宮交通株式会社代表取締役
・H19.5～現在 津南町観光協会理事
・H20.4～現在 大割野商工協同組合監事
・H22.4～現在 津南町商工会監事
・H24.4～現在 津南町陸上競技協会会長

全員賛成で同意されました。(新任)

第2回臨時会 (10月5日開催)

津南町副町長選任の 同意について



津南町大字下船渡甲 1168 番地
(下船渡本村)

村山 昇 氏

昭和27年1月14日生

新しい副町長が決まりました。

中央大学経済学部卒業
昭和49年4月
津南町役場入庁
平成19年4月～22年3月
議会事務局長
平成22年4月～
総務課長
平成23年3月
津南町役場退職
全員賛成で同意
されました。

平成24年度補正予算

9月定例会において、下記のとおり可決されました

一般会計

歳入(補正額)	
分担金等	28万円
国庫支出金	105万円
県支出金	6,241万円
財産収入	▲1,500万円
繰入金	628万円
繰越金	3,606万円
諸収入	2,251万円
補正額合計	1億1,359万円
補正後予算合計	67億0,289万円

歳出(補正額)	
議会費	21万円
総務費	919万円
民生費	4,161万円
衛生費	762万円
農林水産業費	1,221万円
商工費	1,000万円
土木費	300万円
教育費	▲1,876万円
災害復旧費	4,851万円
補正額合計	1億1,359万円
補正後予算合計	67億0,289万円

主な補正の内容

歳入増…農業用施設災害復旧費補助

歳出増…秋山郷地域テレビ難聴アンテナ

除雪支援体制作り事業補助

クアハウス修繕費

住宅改修事業補助金

災害復旧工事費

歳入減…ニューグリーンピア津南施設貸付料

歳出減…埋蔵文化財調査事業



特別会計

	補正額	補正後予算額
国民健康保険特別会計	50万円	12億1,683万円
後期高齢者医療特別会計	169万円	1億1,748万円
介護保険特別会計	1,275万円	14億9,606万円
簡易水道特別会計	300万円	2億8,930万円
下水道事業特別会計	今回補正なし	3億5,654万円
農業集落排水事業特別会計	〃	3億0,092万円
病院事業会計	〃	19億2,312万円
合 計	1,794万円	57億0,025万円

平成23年度歳出決算総額130億19万円を認定

平成23年度一般会計、特別会計、病院事業会計の歳入歳出決算について、9月13日から2日間の審査で、それぞれ質疑が行われ、採決の結果左記のとおり認定されました。

平成23年度各会計決算額の総括表

会計名	歳入	歳出	差引
一般会計	78億4,200万円	74億8,129万円	3億6,071万円
国民健康保険特別会計	12億1,253万円	11億4,073万円	7,180万円
後期高齢者医療特別会計	1億1,514万円	1億1,247万円	267万円
介護保険特別会計	13億8,683万円	13億2,237万円	6,446万円
簡易水道特別会計	2億3,862万円	2億1,111万円	2,751万円
下水道事業特別会計	4億1,059万円	3億7,654万円	3,405万円
農業集落排水事業特別会計	5億1,298万円	4億8,751万円	2,547万円
病院事業会計	18億7,861万円	18億6,817万円	1,044万円
合計	135億9,730万円	130億0,019万円	—

震災復旧・復興に積極対応

今議会で当局は、「災害復旧・復興に全力を傾注してきた」と23年度を総括しました。その言葉の示すとおり、一般会計における災害復旧費は例年になく規模となり、一般会計総額は過去10年で最も多い年となりました。

歳入は長野県北部地震に関連し、特別交付税7億2,202万円（前年度比118%増）をはじめ、国庫支出金では震災と豪雪災害に使われるお金が増加しました。また、県支出金も、「特定被災区域」を対象にした東日本大震災復興事業交付金1億7,000万円などで拡大しました。

歳出も通常の経費に加え、被災した住宅、小中学校、集落内施設、道路橋梁などの復旧事業に多く使われました。さらに、豪雪災害による道路除雪や要援護世帯への支援に対しても、前年より増額して支出されました。町民の命を守ることを第一とし、日常の生活を取り戻すことができるように、休む間もなく災害復旧にあたった関係各位に感謝申し上げます。

自主財源不足依然として課題

23年度の自主財源は、前年度より3,109万円減の10億4,685万円となりました。歳入に占める割合は、前年度比5.7ポイント減の21.4%でした。中でも町民税は、景気低迷により個人、法人ともに顕著な減少が見られました。当町では以前から「三割自治」にも満たない実態があり、町長や多くの議員が問題にしてみました。引き続き、町税の未納解消が求められるとともに、所得向上策と人口減に歯止めをかける政策が喫緊の課題となっています。



災害救援物資搬入

一般会計 賛成討論

草津 進

少子高齢化が急速に進み、取り巻く環境は一段と厳しさを増している。長引く景気低迷、経済状況、雇用面での悪化、税収が望めないにもかかわらず、自然災害「豪雪」「地震」「水害」などに見舞われた。しかし、復旧・復興が着実に進んでいる。農林商工観光産業を始めとする振興策、交流人口の増加、所得向上を目指した認証米制度、将来の生き残りをかけた前向きな町政運営と、あらゆる角度からの検証でムダの無い見直しが進められている。将来ある子供達のため健全財政を堅持し、明るい活気ある取り組みを高く評価し23年度決算を賛成とする。

一般会計 賛成討論

藤ノ木浩子

23年度において、保育料負担軽減策の実施、グループホーム建設とミニ特養小規模多機能居宅介護施設の建設がなされたが、障害者、高齢者を支える取り組みに、更なる充実を願いたい。国保料では一般会計からの繰り入れで、国保料を据え置いた点を評価する。払える国保料でなければ住民生活は壊される。住宅改修補助事業では、特に被災住宅中心に6,740万6千円の予算が活用された。病院事業は看護師、常勤医師確保が益々厳しい状況の中で、地域医療を守ってほしい。今後は、住民が医師や病院に何を求めているのか、住民と共に考え行動していくことが大事と考える。最後に町臨時職員は100人以上いるが、官製ワ

病院事業会計 賛成討論

村山 道明

地域に信頼され、安心して受診できる病院として院長を先頭に診療を行っている。自治体病院の役割は公共の福祉を増進する必要性から、町民の健康増進・検診・各種予防接種など公衆衛生活動が増えている。他方診療報酬の改定による減収から、町からの運営費補助増が顕著にみとられる。保健・福祉・医療を一体とした自治体行政の中心になう責務がある。今後、経営形態の見直しが見込まれる。職員一体となった医療体制を期待し賛成とする。

介護保険会計 反対討論

藤ノ木浩子

介護保険制度の改善と充実が必要である。住民が求める介護基盤の整備と、利用料負担の軽減策の取り組みが求められる中、見直しのたびに値上がり続ける介護保険料の国庫負担を元の5割に戻すよう依頼したい。更に介護現場の人材確保には労働条件の改善が必要である。社会で支えることがうたい文句であった介護保険は、社会保障構造改革の「けん引車」として作られてきたことがはっきりしてきた。誰もが老後は安心だと言える介護保険にするために、抜本的改善を求めていくべきだ。

津南町の財政健全化判断比率の報告

- ①実質赤字比率 黒字のため基準値未満
標準的な財政規模に対する一般会計の赤字の割合
 - ②連結実質赤字比率 黒字のため基準値未満
標準的な財政規模に対する全ての会計の赤字の割合
 - ③実質公債費比率 9.8%（前年度比0.1ポイント増）
標準的な財政規模に対する借入金返済額の割合（3年平均）
 - ④将来負担比率 757.9%（前年度比7.8ポイント増）
標準的な財政規模に対する将来支払う借金の割合
- 資金不足比率
病院会計1.1%（前年度比2.3ポイント減）
公営企業会計ごとの資金不足額の割合。（簡易水道、下水道、農業集落排水事業は資金不足なし）

一般会計データ

比率名	H23年度	早期健全化基準
①実質赤字比率	—	15.00%
②連結実質赤字比率	—	20.00%
③実質公債費比率	9.80%	25.00%
④将来負担比率	57.90%	350.00%

これらの数値は低いほど健全とされています。

議員 草津 進



北陸新幹線開業に向けた誘客は

町長：マスコミ関係者との懇談招へいを予定

ふるさと案内人の養成講座を

北陸新幹線開業に伴う誘客をどのように図っていくか。

町長 津南町単独で関西地区でのマスコミ懇談会、また首都圏からマスコミ関係者の招へいを予定している。関西方面への売り込みは、10月4日～5日にかけて観光関係者、観光協会と一緒に進めていく。

用状況の推移、近隣施設の利用状況、財政状況を見ながら的確に判断していく。

「5つめ・不登校」について津南町は

町長 「いじめ・不登校」防止に向けた家庭、学校との連携をどのように図っていくのか。

教育長 子育て教育に関わる関係機関とのネットワークである「育ネットつなん」の活動を充実させ、町ぐるみで「いじめ・不登校」の減少に取り組んでいく。



アートで観光誘客

近い将来の総合体育館建設の考えは

町長 現在の総合センターが古く、修繕に多額の費用がかかる中、新体育館（大会のできる）建設が求められているが、その考えは。

町長 町にとって大事な課題である。今後、使用団体からの要望、使

議員 風巻 光明



自給率向上対策は農業施策の中で重要

町長：畑作振興に力を入れ生産増に取り組む

自給率向上（地産・地消）の取組は

町長 将来世界的な食糧危機を迎える。そのため、津南町で地産・地消として農産物直売所の支援と、学校や福祉施設等に地元食材の登用拡大は重要である。取り組みを伺う。

町長 日本の自給率は先進国の中でも最低、農業生産額の増加が重要。直売所の経営は厳しいが、今後インショップを推進、また施設内での町内食材の活用は、計画的作付けを検討し取り組みたい。

6次産業で農業所得の向上を

町長 津南町の農産物は安心、安全、そしてピュアであるが、もう一歩踏み出し、付加価値を付けた所得向上策が必要。

町長 現在、女性グループがア



みんなで食べよう おいしい津南米

町長 一番重要なことは冷蔵庫がわりに経済的に成り立つかどうかだ。事例では、赤沢の施設での電気料が半分になり投資を回収できそう。食味も上がりクリーンエネルギーの活用は重要な課題と考えている。

雪国の特徴を生かした雪室の町共有化の取り組みは

町長 農産物の品質向上と販売価格の差別化のため、雪室による保管と熟成が県内でも増えている。最近では米、野菜、切り花だけでなく、色々な品目を扱っている業者が増えているが、津南町でも積極的な取り組みが必要と考えるが。

植物工場の開発について

町長 季節にとらわれず高齢者でもできる植物工場の取り組みを推進すべきと考えるが。

町長 無農薬栽培の価値をつけてもレタス等採算は厳しい。単価の高い高麗人参を足掛かりに県と検討を重ね進めたい。

議員 伊林 康男



CO2オフセット進捗状況と展望は

町長：売買契約は本年10月以降

環境保全と雇用創出の取り組みは

町長 近年温室効果が高まり、地球温暖化による異常気象が各地で頻繁に発生しているが、CO2オフセットについて伺う。

町長 町と森林組合、GO雪共和国の三者の事業体で県に申請し、間伐促進プロジェクト「苗場山麓竜神の森」は平成23年に登録し、本年3月にクレジット発行となり、2,677トンの二酸化炭素吸収量が認証された。本プロジェクトは間伐事業計画に基づき、森林組合が間伐作業を実施、NPO法人がクレジットの活用販売を担当している。

町長 CO2削減クレジットは1トン1万円であるが、協議上での契約となる。売買契約は本年10月以降となり、現在提携している企業は、東日本大震災被災地支援としての日本興和損害保険㈱であり、240～800万円の契約を予定している。また中部ペプシコーラは、自動販売機の売り上げに応じたクレジット購入を行っている。ただ、予定になっている。



大地の芸術祭「山の頂へ」

大地の芸術祭の効果と評価について

町長 今後も実施されるが、地元として文化的・経済的効果を最大限高める施策について伺う。

町長 大地の芸術祭は、作家の作品と共に、妻有の大自然それ自体が芸術作品である。これらを世界に向けてアピールすることで、津南の知名度を高め、津南大好きファンを増やし、経済をはじめ、津南の地勢力を高めていく大きな力となる。

議員 石田 タマエ



人工透析治療の通院手段の確保を

町長：町民の命は町で確実に守る

人工透析治療者の将来不安の緩和を

町長 現在透析治療を受けている方の通院手段が大きな負担となっている。また、将来に向けて大きな不安を抱えている。せめて、大多数が利用している十日町市への通院手段を行政で確保できないか。

町長 各自で通院手段が確保できなくなった時には、公共交通機関やタクシー、ヘルパーも利用できる。行政での通院手段の確保は、通院している病院も何箇所もあり、通院曜日も違っているので、平等性を保ちながら全体的な見直しをつけて検討していきたい。

町長 個々の事情が違っているので、各々の事情に沿った支援が必要ではないか。

「子育てのあるべき姿検討委員会」の進捗状況について

町長 調査をして対応したい。いずれにしても、「町民の命は町で確実に守る」。



1回4～5時間を要する透析治療

議員 兼 原 洋 子



子供の医療費窓口負担ゼロへ

町長：過剰診療が生まれることは否めない

子育て支援に逆行するもの

問 全国の自治体で医療費への助成が進み、実施自治体の78%が窓口支払いをゼロにしている。県内では窓口負担ゼロにしている自治体は一つもない。何かと忙しい子育て世代の経済負担は大きく、無駄に子供を医者に連れては行かない。安心して子供を産み、育てることができるよう、子育て支援にもっと力を入れるべきと考え、窓口負担ゼロにしたい。どう思いますか？

町長 過剰診療が生まれることは否めない。将来を見据えた慎重な対応が必要である。

問 国は「窓口負担を減免している自治体では受診が増え、給付費が不必要に波及増となる。」とし、国保会計への国庫負担金の減額（ペナルティ）を行っている。

これは、医療抑制の何ものでもない。この国の姿勢は、子育て支援に逆行するもの。今後、国の制度として医療費無料化、窓口負担ゼロ、そして自治体へのペナルティを直ちに止めるよう働きかけていただきたい。

町長 国に要望していく。



薬をもらってひと安心

院、入院の助成を中学卒業までに拡充」するが、「子供3人以上のみ」と制限がある。当町のように、子供の数に制限無く全ての子供に適用されるよう、助成制度の拡充に向け県に働きかけていただきたい。

町長 県に要望していく。

TPP 町が中心になり反対運動を

問 TPP参加により、国民皆保険が壊され医療が営利産業化し、医療格差が生じることは明らか。共済制度や協同組合など「この国の形」が狙われている。町民に広く知ってもらう、反対運動をしていただきたい。

町長 参加阻止に向け、関係者と積極的に取り組んで参りたい。

議員 兼 大 平 謙 一



災害の無き町への危機感

町長：安全確保に全力を注ぐ

災害に強い町づくりを 早急に確立すべき

問 本町を流れる大河、信濃川の堤防は本格的な堤防とはいえず、押付、巻下間、大水が出ると堤防を越えて冠水し住宅が危険。早急の改良が必要。国県へどのように要望しているのか伺う。

町長 飯山市から旧中里村間は国の直轄管理ではなく県管理となっている。区間5市町村で組織する直轄



増水で堤防を越える危険が

河川編入連絡協議会として、長野県・新潟県の両県に対し、国直轄編入を要望、増水時の危険性を提示。今年度中に新たな運動に取り組み。

問 津南の小河川も危険な川はたくさんある。住民への周知や啓発は。また砂防などの対応を伺う。

町長 町内に流れる小河川は県管理の一級河川であり、釜堀川など危険箇所は改修を進めている。

地震に対する一般家屋の耐震化は不十分だ

問 耐震化工事の推進はどう取り組むのか。

町長 耐震化診断の自己負担が1万円できる補助事業を行っている。23年度までに60件、24年は4件となっている。耐震化が必要な場合、65万円の補助事業があるが、23年は1件、今年はない。冬の地震対策は19年度防災計画で基本方針を定めた。個人の取り組みも必要と思う。

議員 兼 藤 ノ 木 浩 子



豪雪時の災害救助法運用の見解

町長：真に切迫した状況の判断を確認したい

国は「資力に関係なく真に救助が必要な人」の見解

問 5月31日、災害救助担当者全国会議が行われ、改めて救助対象世帯に関して、「大雪被害においては、資力の有無に関わらず、同法による住宅の除雪を行うことができる」と明確に書かれている。新潟県も「真に切迫して救助が必要であれば、資力のあるなしに関係なく救助されるべき」と考えていることが明らかとなった。町としてはどう認識されているのか。

町長 町も国、県と同様に「真に切迫して救助が必要であれば、資力のあるなしに関わりなく救助を」と認識している。しかし、危険が差し迫っているとの判断が、どのような状況か不明瞭な点もあり、具体的な運用方法を確認していきたい。

24年度の豪雪対策については、救助に関しては、新潟県防災局策定の災害救助の手引きに基づいて行っている。よって、救助対象世帯は非保護世帯、要援護世帯等、経済的弱者であって、自らの資力及び労力によって除雪を行うことができない世帯と



大雪で救助の手を待つ

しており、市町村民税均等割以下の世帯を二応の目安としている。

問 町も国、県と同様に「資力のあるなしに関わらず救助すべき」の見解であれば、今冬の考え方と変わってくるのか。

町長 私共の対応はある程度自負をもっている。資力のあるなしという前に、真に切迫した状況を誰がどのように判断するか、今一番欲しい考え方の論拠である。今冬の措置は万全を期せたいと思うが、財政が許せばやるべきはまだある。

議員 兼 村 山 道 明



いじめの存在に学校評価が関係か

教育長：学校・教員評価システムは無関係

家庭との連携を強く望む

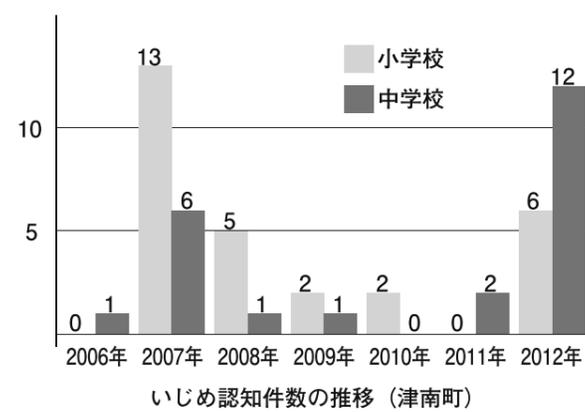
問 どの学校でも起こり、否定できない社会問題。学校現場はゆとりがないと聞く。なぜいじめを知っているながら必要な早期対処ができないのか。評価システムとの関係がないのか。

教育長 学校は忙しいことは事実であるが、それでいじめ対応ができないことにはあたらない。

大地の芸術祭、おもてなし支援を

問 「集落協力支援隊」や「もりあげ隊」が一丸となった証があった。次回、おもてなし支援事業の取り組みは。

町長 前回比137%の入込み客で、大幅に増加した。第6回については、総括で具体的な方策を立てたい。集落支援やおもてなし支援策案があったら是非参考にしたい。



24年度の豪雪対策については、救助に関しては、新潟県防災局策定の災害救助の手引きに基づいて行っている。よって、救助対象世帯は非保護世帯、要援護世帯等、経済的弱者であって、自らの資力及び労力によって除雪を行うことができない世帯と

委員会レポート

総文福祉常任委員会

委員長 草津 進

民生児童委員協議会との懇談会

▽とき 9月19日
▽場所 津南町役場大会議室
▽内容 民生児童委員協議会は「高齢者福祉部会」「障害者福祉部会」「地域福祉部会」「青少年福祉部会」の4部会を構成され、それぞれの部会の意見・要望をいただきました。

主な内容は、「発達障害児対応」、「町全体でできる水づくり運動」、「学校統合問題」、「津南の子供の体験教育を」、「いじめ問題」、「育ネット津南」の定着と成果」等の課題を話し合いました。

少子高齢化が進む中で、学校統合では「地域にとっての学校か」、「子供にとっての学校か」が、今後判断していく中で重要なカギを握るのではないかと思います。

短い時間ではありましたが、活発な意見交換となり、今後の活動に活かしたいと考えます。



いじめや不登校の無い学校へ
(写真: 集団下校)

産業建設常任委員会

委員長 大平 謙一

バイオマスエネルギーを利用した循環型農業を視察

▽とき 7月20日
▽場所 村上市宿田 (株開成)
▽内容 総文福祉委員会と合同で行い、議員16名、畜産農家3名と町関係者合わせて24名で視察を行いました。

バイオマス発電を利用した循環型農業は、廃棄物よりメタンガスを発生させ、そのエネルギーで発電するもので、電力は電力会社に売電し、副産物は肥料として利用します。更にエンジンから発生する熱は温室の熱源に利用しています。

津南にもメタンガスの発生に必要な材料は豊富にあるため、バイオマスは今後大いに期待できるものでした。

同行された方の

想言と感

酪農業 荒井清一郎さん
バイオマス発電プラントが、経営上採算ベースに乗るなら臭気対策を万全にした上で、時代の要求でもあるので強力な行政指導と支援で前進できればと考えます。

養豚業 涌井好一さん
循環型農業の取り組みで畜産残渣が発電に活用されるなら、再生可能エネルギーであるので実現を望みたい。



越冬用人参とキャベツ畑

作況調査

▽とき 9月10日
▽場所 津南町全域
▽内容 本年の農作物の作況について調査しました。午前は水田関係で、午後は畑作について、JA津南町の説明を受けながら調査いたしました。

全議員で署名活動を行った、「灰雨スノーシエッドの早期改修を求める要望書」を町内全集落の総代さんからの署名を添えて、10月2日に議長へ提出しました。



議長(右)へ署名提出

中山 弘 議員



津南町のエネルギーについて

町長：町は地球温暖化対策のモデル自治体の一つといえる

温暖化対策は

○ 総合振興計画では事業費が伴わないと記載されているが今後の取り組みは。

町長 津南町は約70%が森林であり堆肥センター活用による循環型農業や雪室活用のエコロジ化、森林活用のカーボンオフセット事業に取り組んでいる。

○ 風力、水力、太陽光、バイオ等津南での発電活用は進んでいるのか。

町長 バイオマスは調査中であり、少水力発電は事業採択を申請中、太陽光発電は雪国での耐えられるパネルが開発されれば町補助も検討する。

○ 振動発電等新たな技法が開発中である。中津川の活用は大であるが水利権の検討は。

町長 渋沢、切明、穴藤、下船渡発電所は東京電力により導水されている。農業関係では牛首堰堤、割野頭首工が水利活用を行っている。電力の水利権更新は25年3月末に下船渡発電所が許可期限を迎え、発電維持流量を検討し、年内に申請書を作成



バイオマスで発電、活用を

予定。代掻、灌漑、非灌漑期に、下流水利権確保に必要な量は放流されているが、穴藤から下流は十分な水量とはいえない。

○ ゴミ最終処理のあり方は。

町長 灰は年に2〜3回最終処分場に埋め立て、放射性セシウム濃度は定期的に測定している。

恩田 稔 議員



観光、交流人口の拡大について

町長：今夏の入込客は大幅増である

○ ひまわり広場、大地の芸術祭は多くの観光客を誘客したが、それに見合う経済効果はあったのか、正確な調査が必要と思うが、町長の考えは。

町長 経済効果というものは、ファジー(あいまい)な部分があり、正確に算出するためには、多くの人の協力も必要になることから大変難しい。

○ ひまわり広場に訪れた7万人の観光客を、違う季節にもう一回呼び込むようなアイデアを出し、それを具体的に進めることが観光施策ではないかと思うが。

町長 考え方は面白い。例えば、温



津南夏体験の神奈川県葉山町より「葉山まなびや」の子供達

泉券やリフト券など検討してみたい。

○ 役場職員が全てやるのではなく、統括を主にし、作業委託等の考えはないか。

地域振興課長 来期検討する。

北陸新幹線の開業について

○ 北陸新幹線の開業が近づいている。公約の重点施策でもある飯山駅からの誘客は、津南の観光に大きな影響と効果が期待されている。津南町として、飯山線沿線地域活性化協議会には、具体的にはどのような要望を上げ、開業に対応しているのか。

町長 協議会には、ハイブリッド・リゾートビューふるさと号の通年運行、SL列車の定期運行をJR東日本に要望するように提案している。

○ 3月の開業時、飯山線沿線には雪がある。一番列車の乗客を飯山駅から臨時列車で、日本一の豪雪地津南に誘客するために、上村町長からリーダーシップを取っていただきたい。町長の考えは。

町長 今後詳細がわかる中で、さまざまな取り組みを考えていく。今の提言も、取り組みの一つとして忘れずに十分検討する。

東日本大震災被災地視察

8月22日～24日の三日間、総文福祉常任委員会と産業建設常任委員会合同で昨年被災した宮城県、福島県の両県の被災状況、復興状況を視察。今後、津南町の防災に活かしていきたいと思ひます。

視察の感想

東日本大震災被災地視察

▽とき 8月22日～8月24日
▽場所 H23年3月11日発生地 (宮城県・福島県)

総文福祉常任委員長 草津 進
産業建設常任委員長 大平 謙一

津波の被害は甚大で筆舌に尽くしがたいものでした。塩害で稲を作れない農地が延々と続く浜通り、町が全部流されて基礎のコンクリートや鉄骨だけ残っている光景は、テレビや新聞の報道とは全く別物でした。また自主避難地区の飯館村は建物被害を免れたにもかかわらずゴーストタウン化し、その光景を目の当たりにして、放射能被害の恐ろしさを実感いたしました。

福島第一原発事故と、東日本大震災の被災地をこの目で見て改めて事の重大さを痛感いたしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、まだ行方不明からない人たちに心が痛みます。被災された多くの皆様に御見舞い申し上げます。早い復旧・復興を願っています。

22日 宮城県石巻市内の状況を観光協会ボランティアの案内人の方から説明を受け視察。大津波で3～4万トンのガレキが発生し、今も各地で山のように積まれていた。津波は北上川を49Kmも逆流したそうである。災害時で一番困った事は情報が全く入ってこないことなど、生々しい状況を聞いた。



ガレキの山にまだ一隻の船が横たわる

23日 塩釜港から仙台市若林区を視察し、飯館村を通りNPO法人「ゆうきの里東和」を視察。このNPO法人は「ふるさとづくり協議会」を中心に、道の駅で有機野菜の直売や特産品の加工を行い、地域資源循環型を目指し、山里の再生という点で津南と共通するものであった。



骨組みだけが残ったガソリンスタンド

24日 いわき市薄磯地区の津波被害を視察し、塩谷崎では湾の地形の関係で、奇跡的に津波の被害を受けなかった美空ひばり記念碑を見学。



津波で家が全て流された跡地

東日本大震災被災地を視察して考える

被害の大きさは計り知れない。何千戸もあつたはずの住宅地、今頃は黄金のみのりの風景が見られたであろう田畑が、一年半後の今は雑草だらけで手がつけられない。その光景を目の当たりにして、あたかも地獄絵巻を見ているようだ。そういう中でも、被災された人達が復興への希望を胸に頑張っている姿は本当に頼もしく見えた。

いる現場を見て、民間企業の力強さを痛感する。

① 子供たちが避難行動を誘導し、多くの命が救われたことを聞き、学校教育現場で災害時の行動訓練の重要さを痛感する。子供は学校で教わったことを素直に行動に移したが、はたして大人はどのようにできるか疑問である。

震災後約一年半が経過しているにも関わらず未だ大量のガレキの山を見て、国の対応の遅れを痛感する。

② 被災者は情報がないことに一番困惑し、不安の中をさまよった数日間を思うと、いかに有事の時の情報伝達手段を確保するかが今後の課題である。

このように、私達も生まれて初めて大災害を経験したが、色々な面で災害の準備ができていないことにあらためて気がついた。これは地震だけではない。津南町も、昨年は何回も自然災害に遭遇した。大雪、豪雨の洪水と土砂崩れ、そして大風(おおかせ)だ。無残にも自然の猛威には人はなすすべがなかった。これらを経験し、今後わが町では、防災対策を町全体で取り組む必要があると考える。

③ 地震や津波被害を免れた飯館村では、放射能被害により、荒れ放題の農地や新築間もない住宅が立ち並ぶが、全く人影はなく荒れ放題の農地に、同じ農業者としてやりきれない気持が募る。目に見えない放射能という魔物に今後我々ほどのように対応していくか、他人ごとではないという思いをより強くした。まさに「百聞は一見にしかず」である。

現在津南町では各地区で自主防災組織がつかられ訓練が始まっている。又携帯電話による防災情報も取り組まれているが、老人だけの世帯や限界集落への対処も不可欠である。もう一度点検して見る必要がある。昨年の世相を表す漢字は「絆」であったが、住民どうしの助け合いがその中でも一番重要である。我々津南町議会も住民の皆様の安心・安全を約束できるように、今後も精一杯活動したいと考えている。(議会広報特別委員会)

シリーズ・町民の声 私もひと言



津南町で就職して

赤沢 滝沢もえみさん (JA津南町)

高校を卒業して、とにかく何も無いこの町から出たくて、あまり考えずに神奈川の大学に進学しました。

関東での暮らしは、コンビニには歩いて行けるし、24時間営業のファミレスもあるし、電車は10分に一度は来るし、今までの生活とは大きく異なるものでした。でも、いざ何でも手に入る生活をしてみると、思い出すのはバスの待ち時間に友達と話したことや、部活の帰りにコロケを買って食べたことなど津南のことばかりでした。就職活動をするようになり、将来どこで働こうかと考えた時に、やはり地元に戻りたいと思い津南町での就職を決めました。実際に地元で就職してみても、大変なこともあるけれど津南に帰って来て良かったと思います。津南町で働いて今まで知らなかったことを知ることが出来たし、多くの人との出会いがありました。これからも、もっと色々な津南町が見れたら良いなと思います。

今回の「私もひと言」は今春に新卒で就職された方の声を掲載しました。



津南に就職し思うこと

正面 池田さやかさん (苗場福祉会 みさと苑)

今春4月に社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を取得し、苗場福祉会に就職しました。私は介護分野が専攻でなかったため、業務を覚える以外にお客様とのコミュニケーションの取り方や、介護技術を一から学んでいくのが大変でした。今も毎日勉強中ですが、先輩方やお客様に支えられ頑張っています。

進学のため津南を離れてみて、都会のような便利さは無いけれど、自然に囲まれ人のあたたかみがある素晴らしい町だということを感じました。

でも実際に津南町で就職先を見つけることは、結構大変なことでした。「町に若い力を」という言葉は良く聞きますが、故郷に戻って就職できる場は限られていると思います。ですから私は津南町に若者の就職できる場所が増えることを望みます。最後に、生まれ育った地域に貢献できるよう頑張りたいと思います。

編集後記

今年の夏はロンドンオリンピックがあり、津南町では大地の芸術祭が開催され、前回を大幅に上回るお客様が訪れました。また、猛暑と水不足が続きましたが、ようやく秋の気配が感じられる今日この頃、秋始末で毎日お忙しい日をおくられていることと思います。

議会はネット中継も定着し、広く町民の皆様へ議会活動を知っていただくよう努力しております。傍聴にもおいで下さい。

オリンピックで銀メダルに輝いた三宅選手をお迎えし、9月5日には祝賀会に議員も参加させていただきました。

